

2024年度
(令和6年度)

長崎国際大学大学院

薬学研究科

医療薬学専攻(博士課程)

学生募集要項

学内進学者入試

一般入試

社会人入試

長崎国際大学
Nagasaki International University

大学院 薬学研究科

● お問い合わせ先 ●

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7

TEL : 0956-39-2020 FAX : 0956-39-3111

URL. <https://www1.niu.ac.jp>

目次

| | |
|---------------------|---|
| 博士課程入学試験概要 | 1 |
| 1. 出願に関して | 2 |
| 2. 出願資格 | 2 |
| 3. 出願書類 | 2 |
| 4. 出願手続 | 3 |
| 5. 選抜方法、試験科目および試験時間 | 4 |
| 6. 合格発表 | 4 |
| 7. 入学手続 | 4 |
| 8. 入学金および授業料とその納入時期 | 5 |
| 9. 長期履修制度 | 5 |
| 10. 入学試験会場 | 6 |
| 出願書類記入上の注意 | 7 |

【薬学研究科医療薬学専攻博士課程の概要】

| | |
|--------------------------------|----|
| 1. 人材養成及び教育研究上の目的 | 8 |
| 2. 薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）の教育体系 | 8 |
| 3. 授業及び履修指導 | 9 |
| 4. 社会人のための教育方法特例の実施 | 10 |
| 教育課程等の概要 | 11 |
| 2024（令和6）年度カリキュラム（予定） | 12 |
| 2024（令和6）年度『特別研究』の研究指導担当教員（予定） | 13 |

長崎国際大学 出願書類に係る個人情報取扱いについて

本学では、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）を遵守し、長崎国際大学個人情報保護規程に基づき、出願者の個人情報の利用、保護、管理を行います。出願書類に記載された個人情報については、入学試験にかかわる事務連絡、入学検定料・入学金・その他の納付金などの入金確認に利用することを予めご了承ください。

なお、原則として、提出された個人情報は第三者に開示または提供することはありません。

薬学研究科 博士課程 入学試験概要

(Graduate School of Pharmaceutical Sciences)

| 専攻名 | 募集人員 | 修業年限 |
|---|------|------|
| 医療薬学専攻 (Doctoral Course in Clinical and Pharmaceutical Sciences) | 3名 | 4年 |

上記募集人員は、学内進学者入試・一般入試・社会人入試の募集人員を合計したものである。

理念とミッション・入学者受け入れ方針

○ 理念とミッション

薬学研究科・医療薬学専攻では、医療社会薬学、薬物治療設計学、予防薬学、医療基盤薬学を機軸に最高水準の教育・研究活動を行い、高度化医療、医療行政、育薬などの職域で実践的な研究能力を有する優れた先導的医療系薬学研究者（在宅医療研究者、がん・疼痛緩和研究者、処方設計研究者、予防薬学研究者、医療行政研究者）を育成する。このために、医療系薬学、社会系薬学、育薬系薬学などの分野で、深い専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や高い評価能力の修得を目的とする。

○ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

医療薬学専攻では、広く次のような人材を求めています。

- ・深い専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や評価能力などを身につけることができる人材。
- ・高度な知識と研究能力を礎として薬学がカバーすべき広範な基礎及び臨床科学の諸分野をリードし、将来にわたり地域社会と国際社会に貢献することを目指す人材。
- ・高度化医療、医療行政、育薬などの職域で実践的な研究能力を有する優れた先導的医療系薬学研究者（在宅医療研究者、がん・疼痛緩和研究者、処方設計研究者、予防薬学研究者、医療行政研究者）を目指す人材。

入学試験日程および会場

| | |
|--------|------------------------|
| 願書受付期間 | 2024年2月19日(月)～3月1日(金) |
| 試験日 | 2024年3月8日(金) |
| 試験会場 | 長崎国際大学 |
| 合格発表 | 2024年3月14日(木) |
| 入学手続期間 | 2024年3月14日(木)～3月22日(金) |

注) 願書受付期間および入学手続期間は、締切日必着。

1. 出願に関して

志願者は、出願までに希望する研究指導担当教員または薬学研究科長と事前に必ず連絡を取り、詳細について十分に打ち合わせをすること。

2. 出願資格

(1) 学内進学者入試

本学の薬学部薬学科を卒業した者、及び2024年3月までに卒業見込の者。

(2) 一般入試

次のいずれかに該当する者。ただし⑧～⑨号の出願資格にあつては、事前に個別の受験資格審査を行い、本研究科がその出願資格を認めた者に限る。

- ① 6年制薬系大学を含む修業年限が6年の大学を卒業した者、及び2024年3月までに卒業見込の者。
- ② 4年制大学を卒業しかつ修士の学位または専門職学位を有する者、及び2024年3月までに同学位を取得見込の者。
- ③ 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者、及び2024年3月までに修了見込の者。
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者、及び2024年3月までに修了見込の者。
- ⑤ 日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の18年の課程を修了した者、及び2024年3月までに修了見込の者。
- ⑥ 外国の大学等において、修業年限が5年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者、及び2024年3月までに授与される見込の者。
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者。
- ⑧ 大学院に「飛び入学」した者であつて、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。
- ⑨ 本研究科において、修業年限が6年の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、かつ2024年4月1日現在で満24歳以上の者。

(3) 社会人入試

入学時までに本研究科が認める社会経験が3年以上ある者で、一般入試の出願資格のいずれかに該当し、かつ入学後も社会人として勤務することを希望している者。

3. 出願書類

① 志願票（本研究科所定用紙）

志願票は「大学院志願票」、「写真票」および「受験票」がある。記入にあたっては出願書類の記入上の注意を参照すること（7頁）。

② 希望研究概要（本研究科所定用紙）

記入にあたっては、出願書類記入上の注意を参照すること（7頁）。

③ 卒業論文題目・要旨（本研究科所定用紙）

④ 卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書

出身大学長、学部長、または研究科長が証明したもの。

⑤ **成績証明書**

最終教育課程の学業成績証明書で、出身大学長、学部長、または研究科長が証明したもの。

⑥ **健康診断書**

出願前3ヵ月以内に医療機関で証明を受けたもの（現在在学中の者は、学校医の証明で可）。
診断項目は、身長・体重・胸部X線・医師の所見が証明されたものとする。

⑦ **受験および修学承諾書（本研究科所定用紙）または在職証明書**

社会人入試を受験しようとする者は、所属長が証明する「受験および修学承諾書」を提出すること。

また、一般入試の出願資格④で出願しようとする者で、職歴のある場合は在職証明書を提出すること（社員証、健康保険証等で在職期間が記載されているもの。コピー可。ただし、現職が3年に満たない場合は、前職の在籍証明書も提出すること）。

⑧ **入学検定料**

一般・社会人入試の受験者は30,000円、学内進学者は10,000円とする。

ゆうちょ銀行を除く銀行窓口より、当該銀行の振込用紙を用いて振り込むこと（ATM不可）。
口座番号は7頁参照。

⑨ **写真2枚〔カラー 縦4cm×横3cm〕**

上半身脱帽、正面向きで出願前3ヵ月以内に撮影したものを「志願票」と「写真票」に貼付すること。

⑩ **英語資格の取得または英語外部試験のスコアを証明できるもの（日本人志願者等）**

次のいずれかを取得・得点したことを証明するものの写し（証明書発行日から3年以内のもの）

- | | | |
|---|--------------------------|--------------------|
| 1) 実用英語技能検定 1,700点以上 | 2) TOEIC L&R /S&W 625点以上 | 3) TEAP CBT 235点以上 |
| 4) ケンブリッジ英語検定 120点以上 | 5) TEAP 135点以上 | 6) IELTS 4.0以上 |
| 7) GTEC オフィシャルスコア 690点以上（※2023年4月以降取得は680点以上） | 8) TOEFL iBT 42点以上 | |

4. 出願手続（締切日必着）

出願書類を角2サイズ封筒に封入し、出願期間内に到着するよう、簡易書留で郵送すること。日本郵便の「レターパックプラス」や「レターパックライト」を使用してもよい。

また、次の注意事項に留意すること。

- ① 書類不備の場合は受け付けない。また、一度提出された書類は返還しない。
- ② いったん納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還しない。
- ③ 提出する証明書は、全て厳封したものに限る。
- ④ 出願書類が英語または日本語以外で書かれている場合は、必ず日本語訳を添えて提出のこと。
- ⑤ 改姓により出願書類と現在の氏名が異なる場合は、戸籍抄本など本人と確認できる書類を提出のこと。
- ⑥ 受験上および修学上特別な配慮が必要な場合は、出願前に申し出ること。
- ⑦ 個別の受験資格審査を希望する場合は、2024年1月5日（金）～2024年1月19日（金）に入試・募集センターへ申し出ること。

5. 選抜方法・試験科目および試験時間

入学者の選抜は、学力検査、面接（希望する専門領域に関する口頭試問含む）、出願書類を総合的に判定して行う。

| 試験区分 時間 | 一般 | 学内進学者・社会人 |
|-------------------|--|-----------|
| | 試験科目 | 試験科目 |
| 9:00～ 9:10 | (受験上の注意) | (受験上の注意) |
| 9:10～10:10 (60分) | 学力検査「小論文」 | 学力検査「小論文」 |
| 10:20～11:20 (60分) | 学力検査「英語」 | (免除) |
| 12:30～14:00 (90分) | 学力検査 次の24科目より出願時に2科目選択 1.分析化学 2.薬品物理化学 3.放射化学 4.有機薬化学 5.生薬学 6.薬品製造学 7.機能形態学 8.生化学 9.細胞生物学 10.免疫学 11.微生物学 12.衛生化学 13.公衆衛生学 14.ゲノム創薬学 15.創薬化学 16.薬理学 17.製剤学 18.薬物動態学 19.薬物治療学 20.疾病学 21.臨床薬理学 22.分子生物学 23.臨床検査学 24.調剤学 | (免除) |
| 14:30～ (30分程度) | 面接(口頭試問) | 面接(口頭試問) |

注1)「英語」は辞書持込み可とするが、電子辞書は認めない。

※日本人志願者等については、英語において外部試験のスコアを利用できる。外部試験のスコアを利用する場合においても、本学で実施する「英語」を受けたうえで、外部スコアの換算得点と「英語」の得点を比較して、高得点のものを合否判定に採用する。

- 2) 専門科目の受験に際しては、電卓の持込みを許可する。
- 3) 「小論文」の文字数は、800字である。
- 4) 学内進学者と社会人の面接は、「小論文」の後に行う。

6. 配点

<一般>

| 区分 | 小論文 | 英語 | 学力検査 | | 面接者① | 面接者② | 面接者③ | 計 |
|----|-----|----|------|-----|------|------|------|-----|
| | | | 選択① | 選択② | | | | |
| 配点 | 20 | 50 | 30 | 30 | 10 | 10 | 10 | 160 |

<学内進学者・社会人>

| 区分 | 小論文 | 面接者① | 面接者② | 面接者③ | 計 |
|----|-----|------|------|------|-----|
| 配点 | 100 | 20 | 20 | 20 | 160 |

◆英語外部検定試験スコアの英語得点換算表

| CEFR 段階評価 | 換算 得点 | ケンブリッジ 英語検定 | 実用英語 技能検定 | GTEC オフィシャルスコア | IELTS | TEAP | TEAP CBT | TOEFL iBT | TOEIC L&R/S&W |
|--------------|----------|----------------|--------------|-------------------|---------|---------|-------------|--------------|------------------|
| C1 | 50点 | 180以上 | 2600以上 | 1350以上 | 7.0以上 | 375以上 | 800 | 95以上 | 1845以上 |
| B2 | 45点 | 160-179 | 2300-2599 | 1190-1349 | 5.5-6.5 | 309-374 | 600-795 | 72-94 | 1560-1840 |
| B1 | 35点 | 140-159 | 1950-2299 | 960-1189 | 4.0-5.0 | 225-308 | 420-595 | 42-71 | 1150-1555 |
| A2 | 25点 | 120-139 | 1700-1949 | 注) 690-959 | | 135-224 | 235-415 | | 625-1145 |

注) 2023年4月以降の取得得点は680点以上

7. 合格発表

合格結果は志願者全員に郵送にて通知、また大学ホームページに掲載(当日のみ 10:00~17:00)する。合格者には「合格通知」および「入学手続要項」を送付する。合格に関する問い合わせには、一切応じない。

《 注意 》

出願資格において、「卒業(修了)見込」で受験し合格しても、出願要件を2024年3月末日までに満たせない場合は、入学許可を取り消すことがある。2024年3月末日までに出願要件を満たした者は、卒業証明書・成績証明書を入学時に入試・募集センターへ提出すること。

8. 入学手続

- ① 入学手続は入学手続期間内に「入学金および授業料」を納入し、併せて「入学手続書類」を提出することによって完了する。
- ② 提出された「入学手続書類」は返却しない。また、一度納入された入学金は返還しない。
- ③ 入学を辞退する者は、2024年3月29日(金)正午(必着)までに「入学辞退届」を提出すること(所定様式)。その場合は、入学金を除いた納付金を返還する(振込手数料は差し引きます)。

9. 入学金および授業料とその納入時期

| | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 【一括手続き】 2024年3月14日(木)~3月22日(金) 必着 | ・入学金、前期授業料、委託徴収金の納入 ・入学手続書類の提出 |
|--------------------------------------|-----------------------------------|

<初年度納付金(2023年度実績)>

| 区 分 | 学内進学者 | 一般・社会人 |
|--------|----------|------------|
| 入 学 金 | 0円 | 250,000円 |
| 前期授業料 | 400,000円 | 400,000円 |
| 後期授業料 | 400,000円 | 400,000円 |
| 初年度納付金 | 800,000円 | 1,050,000円 |

注) 上記の他、入学手続き時に委託徴収金(損害保険料)4,730円(2023年度実績)が必要です。

外国人留学生はインバウンド付帯学生生活総合保険料として別途37,410円が必要です。

10. 長期履修制度

長期履修制度は、職業を有している等の事情により時間的制約があり、標準修業年限での修了が困難な学生に対し、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、学位取得することを認める制度です。この制度により在学する正規学生を長期履修学生とといいます。経済的負担を抑えつつ、修学期間を延長できるので、仕事等との両立を図りながら修了を目指すことができます。詳細については、お問い合わせください。

〔対象となる学生〕

- ① 職業を有し、就業している者
- ② 家事、育児、介護等に従事している者
- ③ その他相当の事由があると研究科長が認めた者

※ただし、外国人留学生(在留資格「留学」を有する者。)は対象外。

〔長期履修の期間〕

申請期間は1年単位です。ただし、最大申請期間は修士課程が4年以内、博士後期課程が6年以内です。在学途中から長期履修が認められた者の長期履修期間は、未修学年数の2倍に相当する年数以内です。

〔申請方法〕

新入生は 入学手続き時に(入学手続き書類と一緒に送付)、在學生は長期履修開始を希望する前年度12月までに申請が必要です。申請には下記の2つの書類を提出してください。

- ① 長期履修（長期履修期間変更）申請書
- ② 研究計画書

〔授業料〕

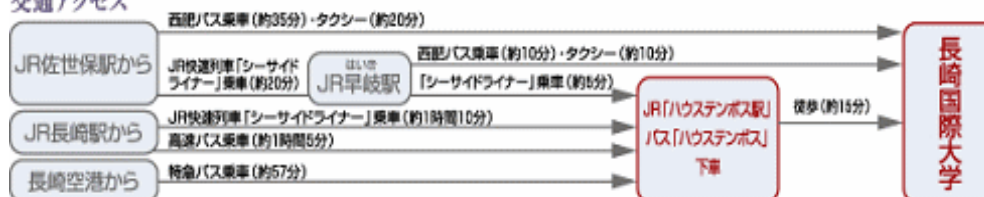
標準修業年限の授業料等の総額からすでに納入した標準の授業料等の総額を減じた額を長期履修期間の残りの修学年数で案分した額をお支払いいただきます。

11. 入学試験会場

長崎国際大学 〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7
Tel : 0956-39-2020 (代)
Fax : 0956-39-3111 (代)
E-mail : kikaku@niu.ac.jp



交通アクセス



出願書類記入上の注意

1. 「志願票」について

- (1) 本研究科所定の用紙を使用し、黒のボールペンまたは、万年筆で必要事項を記入すること。
なお、「志願票」は、裏面もあるので注意すること。
- (2) 試験区分欄には、「学内」「一般」「社会人」のいずれかを○で囲むこと。
- (3) 「一般入試」の志願者は、4頁の試験科目および試験時間の表を参考に、学力検査24科目の専門分野から、2科目を選択して記入すること。
- (4) 住所・電話番号については、志願者に連絡がとれる場所および連絡のとれる電話番号を記入すること。
- (5) 写真の裏面に氏名を明記し、貼付場所に全面糊付けすること。
- (6) 履歴欄には、高等学校卒業から現在までの履歴を記入すること。
- (7) 志願票の裏面には、職歴、卒業論文題目および論文の要旨、取得した資格等を記入すること。

2. 「写真票」「受験票」について

- (1) 本研究科所定の用紙を使用し、黒のボールペンまたは、万年筆で必要事項を記入すること。
- (2) 写真の裏面に氏名を明記し、「写真票」の写真貼付場所に全面糊付けすること。

3. 「希望研究概要」について

本研究科所定の用紙を使用し、黒のボールペンまたは万年筆で、氏名、生年月日、出身大学、希望する研究テーマ及び理由、課程終了後の予定などを楷書で記入すること。

- (1) 試験区分欄には、「学内」「一般」「社会人」のいずれかを○で囲むこと。
- (2) 受験番号欄には、何も記入する必要はありません。
- (3) 研究したいテーマ及び理由欄には、12～14頁の表より希望する「特別研究」の研究指導担当教員の氏名を記入すること。

4. 入学検定料の振込について

入学検定料は、銀行備え付けの振込用紙を使用し、ゆうちょ銀行を除く銀行窓口より振り込むこと（ATM不可）。

検定料振込先口座番号 十八親和銀行 早岐支店 普通 2129767

受取人 学校法人九州文化学園 長崎国際大学 がり キュウシュウブンガクケン がさきこくさいがかり

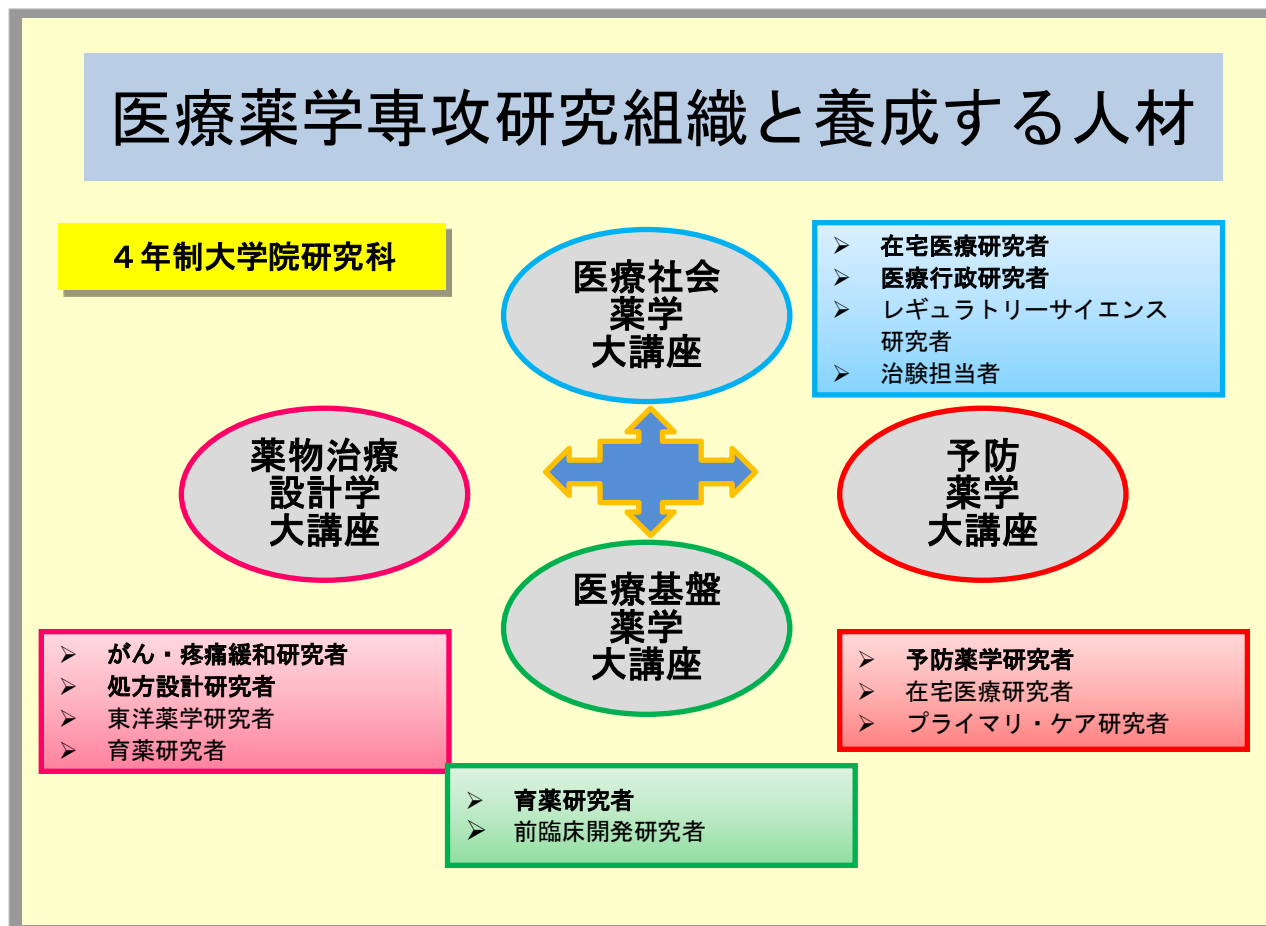
薬学研究科医療薬学専攻博士課程の概要

1. 人材養成及び教育研究上の目的

薬学研究科は、医療社会薬学、薬物治療設計学、予防薬学、医療基盤薬学を機軸に最高水準の教育・研究活動を行い、高度化医療、医療行政、育薬などの職域で実践的な研究能力を有する優れた先導的医療系薬学研究者（在宅医療研究者、がん・疼痛緩和研究者、処方設計研究者、予防薬学研究者、医療行政研究者）を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献する人材を輩出する。このために、医療系薬学、社会系薬学、育薬系薬学などの分野で、深い専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や高い評価能力の修得を目的とする。

授業科目・履修方法・研究指導担当教員等については、11～14頁を参照ください。

2. 薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）の教育体系



3. 授業及び履修指導

1) 授業科目の区分

●演習科目

課題解決に向けた知識・技能を獲得することを目的とし、研究を行う上での基礎となるべき知識・技能の体系的な学修から、高度専門職としての研究・教育へと段階的に配置している。

●特別研究

大学院生各自の個別の研究テーマの深化・完成を目指す特別研究が開講される。特別研究は、演習科目と異なり、専任教員による個別の研究指導であり、最終的に博士論文執筆につながる指導を行う。

●特別研究と学位論文

- ① 第1年次に学位論文の基礎となる研究テーマを確定した後に、これに関する研究の展開に必要な実験・調査を中心とした研究指導を行う。
- ② 第2年次には、引き続き学生を主体とした特別研究の遂行と研究で得られたデータから導き出される妥当性を議論し、博士論文作成に向けた研究指導を行う。
- ③ 第3年次には、特別研究のさらなる遂行と博士論文及び学術雑誌への投稿論文の執筆に関わる研究指導を行う。
- ④ 第4年次には、特別研究のさらなる遂行と博士論文の完成及び最終試験に向けた研究指導を行う。

2) 授業科目・担当教員一覧

近年の医療の高度化、複雑化、超高齢社会の到来の状況下、多職種協働による在宅医療・がん医療・緩和ケアの中で高度な薬物療法の立案実行ができる高度専門職としての医療系薬学研究者の養成を目的に、医療薬学、社会薬学、育薬学を機軸に「医療社会薬学大講座」「薬物治療設計学大講座」「予防薬学大講座」及び「医療基盤薬学大講座」の4つの大講座による教育・研究に対応した科目を配置している(11頁参照)。

3) 履修・研究指導

●履修要件と学位の授与

11頁に掲げた授業科目から、必修科目の特別研究12単位、研究指導担当教員が所属する科目区分から4単位以上(講義科目又は演習科目)、その他の科目区分からそれぞれ2単位以上(講義科目又は演習科目)を履修して、合計32単位以上を修得し、かつ博士論文の審査と最終試験に合格することを修了要件とする。

特別研究については、学生ごとに研究指導担当教員を定め、博士論文作成の指導を受ける。

●履修・研究指導

入学後に履修ガイダンスを実施し、学生に研究計画案、履修希望科目届等を提出させる。その後、研究指導担当教員が履修科目の選択から学位論文の作成に至るまでの履修指導を個別に行う。

●学部開講科目の履修

本専攻における授業科目の履修にあたって、大学院の授業の補完として学部の授業を受講する場合は、研究指導担当教員と授業担当教員の理解が必要となる。その際、受講した科目の単位は取得できない。

4. 社会人のための教育方法特例の実施

本研究科は、関係する企業・施設、官公庁等の勤務者や一般社会人に対して広く門戸を解放するために、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第14条に定める教育方法の特例(昼夜開講制による教育)を実施する。

特例による授業時間帯は、原則として6時限(18:10~19:40)及び7時限(19:50~21:20)とする。このほか、土曜日あるいは春・夏・冬期休業期間中に演習や研究指導の時間を設定するなど、社会人学生の修学環境の整備に配慮する。なお、社会人以外の学生についても、授業において相互に切磋琢磨する教育効果を重視し、学生の希望により特例の時間帯の受講を認める。

薬学研究科（医療薬学専攻）の教育課程等の概要

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 授業形態 | | | 専任教員等の配置 | | | | 備考 | |
|--|---|-------|-----------|----|----|------|----|--------------|----------|-----|----|----|----|----------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 講義 | 演習 | 実験・実習 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | | |
| 医療社会薬学 | ファーマコメトリクス特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 3 | 2 | 1 | | | オムニバス |
| | レギュラトリーサイエンス特論 | 1-3 後 | | 2 | | ○ | | | 5 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| | 薬物相互作用解析特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 4 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| | 薬物療法・リスク評価学演習 | 1-3 後 | | 2 | | | ○ | | 4 | 2 | 3 | | | オムニバス |
| | 医薬品評価・管理学演習 | 1-3 前 | | 2 | | | ○ | | 4 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| | Advanced Social Pharmacy | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 6 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| | 小計(6科目) | — | 0 | 12 | 0 | | — | | 6 | 2 | 3 | | 兼2 | |
| 薬物治療設計学 | 処方解析学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 4 | 2 | 1 | | | オムニバス |
| | 最先端医薬品学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 3 | 1 | 1 | 1 | | オムニバス |
| | 漢方医療設計学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 2 | 1 | 1 | | | オムニバス |
| | Practice on Pharmacotherapeutics | 1-3 後 | | 2 | | | ○ | | 4 | 2 | 2 | | | オムニバス・共同 |
| | 薬物治療・薬効解析学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 4 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| | 小計(5科目) | — | 0 | 10 | 0 | | — | | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 予防薬学 | 衛生予防薬学特論 | 1-3 後 | | 2 | | ○ | | | 4 | | 1 | | | オムニバス |
| | 感染制御学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 5 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| | 分子標的予防学特論 | 1-3 後 | | 2 | | ○ | | | 2 | 1 | 2 | | | オムニバス |
| | 臨床病態検査学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 3 | 1 | 1 | | | オムニバス |
| | プライマリ・ケア演習 | 1-3 前 | | 2 | | | ○ | | 4 | | 1 | | | オムニバス |
| | Advanced Preventive Medicine | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 6 | 2 | 4 | | | オムニバス |
| 小計(6科目) | — | 0 | 12 | 0 | | — | | 7 | 2 | 5 | | | | |
| 医療基盤薬学 | 標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 6 | 3 | 2 | | | オムニバス |
| | 医療分子機能科学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 8 | | 1 | | | オムニバス |
| | 疾病解析学特論 | 1-3 前 | | 2 | | ○ | | | 5 | 1 | 1 | | | オムニバス |
| | 医療分子機能科学演習 | 1-3 後 | | 2 | | | ○ | | 8 | | | | | オムニバス |
| | 疾病解析学演習 | 1-3 後 | | 2 | | | ○ | | 6 | 3 | 1 | | | 共同 |
| | Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery | 1-3 後 | | 2 | | ○ | | | 8 | 2 | 2 | | | オムニバス |
| 小計(6科目) | — | 0 | 12 | 0 | | — | | 9 | 3 | 2 | | | | |
| 共通 | 特別研究 | 1-4 通 | 12 | | | | | ○ | 22 | 8 | 8 | | | |
| | 小計(1科目) | — | 12 | | | | — | | 22 | 8 | 8 | | | |
| 合計(24科目) | | — | 12 | 46 | 0 | | — | | 22 | 8 | 9 | | 兼2 | |
| 学位又は称号 | 博士(薬学) | | 学位又は学科の分野 | | | | | 薬学関係 | | | | | | |
| 修了要件及び履修方法 | | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | |
| 【修了要件】 大学院に4年以上在学し、32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。 【履修方法】 共通科目区分の必修科目(特別研究)12単位に加え、研究指導担当教員が所属する科目区分から4単位以上(講義科目又は演習科目)、その他の科目区分からそれぞれ2単位以上(講義科目又は演習科目)、総計32単位以上を修得しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 | | 2期 | | | | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 | | 15週 | | | | |
| | | | | | | | | 1時限の授業時間 | | 90分 | | | | |

2024(令和6)年度カリキュラム(予定)

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 担当教員 | 履修方法 |
|---------|---|------|-----|----|--|---|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 医療社会薬学 | ファーマコメトリクス特論 | 1-3 | | 2 | 梶島・早川・室・神谷・神田・吉田 | 共通科目区分の必修科目 (特別研究) 12 単位に加え、研究指導担当教員が所属する科目区分から 4 単位以上 (講義科目又は演習科目)、その他の科目区分からそれぞれ 2 単位以上 (講義科目又は演習科目)、総計 32 単位以上を修得しなければならない。 |
| | レギュラトリーサイエンス特論 | 1-3 | | 2 | 長岡・梶島・淀・室・早川・神田・神谷・出口・吉田 | |
| | 薬物相互作用解析特論 | 1-3 | | 2 | 長岡・梶島・早川・室・神田・神谷・出口・吉田・川崎 | |
| | 薬物療法・リスク評価学演習 | 1-3 | | 2 | 梶島・高井・早川・室・神谷・神田・出口・吉田・川崎 | |
| | 医薬品評価・管理学演習 | 1-3 | | 2 | 長岡・梶島・室・早川・神谷・出口・吉田・神田 | |
| | Advanced Social Pharmacy | 1-3 | | 2 | 梶島・長岡・淀・室・早川・高井・神谷・神田・出口・吉田 | |
| 薬物治療設計学 | 処方解析学特論 | 1-3 | | 2 | 岸原・大磯・西奥・山口拓・神田・縄田・藤木 | 修了要件 本課程に 4 年以上在学し、研究科規程の定めるところにより、32 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格する。 |
| | 最先端医薬品学特論 | 1-3 | | 2 | 山口拓・岸原・西奥・藤木・縄田・大久保 | |
| | 漢方医療設計学特論 | 1-3 | | 2 | 宇都・山口拓・西奥・早川・神田・太田智・縄田・川崎・大久保 | |
| | Practice on Pharmacotherapeutics | 1-3 | | 2 | 岸原・大磯・山口拓・西奥・宇都・藤木・縄田・太田智 | |
| | 薬物治療・薬効解析学特論 | 1-3 | | 2 | 山口拓・大磯・岸原・西奥・宇都・藤木・縄田・太田智 | |
| 予防薬学 | 衛生予防薬学特論 | 1-3 | | 2 | 佐藤・小林・長岡・小川・相田 | 修了要件 本課程に 4 年以上在学し、研究科規程の定めるところにより、32 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格する。 |
| | 感染制御学特論 | 1-3 | | 2 | 小林・小川・隈・佐藤・深澤・太田一・田中宏・高崎・相田 | |
| | 分子標的予防学特論 | 1-3 | | 2 | 深澤・藤本・田中宏・吉田・小林 | |
| | 臨床病態検査学特論 | 1-3 | | 2 | 隈・小林・小川・太田一・高崎 | |
| | プライマリ・ケア演習 | 1-3 | | 2 | 早川・小林・隈・佐藤・藤本 | |
| | Advanced Preventive Medicine | 1-3 | | 2 | 深澤・田中宏・小林・佐藤・小川・長岡・隈・太田一・相田・高崎・藤本・出口・倉岡 | |
| 医療基盤薬学 | 標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論 | 1-3 | | 2 | 大庭・佐々木・藤田・山口泰・黒川・市川・太田一・山田・石原・藤井・榎本 | 修了要件 本課程に 4 年以上在学し、研究科規程の定めるところにより、32 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格する。 |
| | 医療分子機能科学特論 | 1-3 | | 2 | 安東・佐々木・山口泰・市川・大庭・藤田・淀・高井・黒川・小島・山田・石原・藤井・榎本 | |
| | 疾病解析学特論 | 1-3 | | 2 | 藤田・佐々木・大庭・山口泰・市川・太田一・榎本 | |
| | 医療分子機能科学演習 | 1-3 | | 2 | 山口泰・佐々木・大庭・淀・藤田・市川・黒川・高井 | |
| | 疾病解析学演習 | 1-3 | | 2 | 山口泰・佐々木・大庭・藤田・市川・黒川・太田一・山田・石原・藤井 | |
| | Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery | 1-3 | | 2 | 佐々木・山口泰・市川・大庭・藤田・淀・高井・黒川・山田・石原・藤井・榎本 | |
| 共通 | 特別研究 | 1~4 | 12 | | 【医療社会薬学】 梶島・長岡・早川・室・淀・神谷・神田・出口・吉田・川崎・末廣 【薬物治療設計】 大磯・岸原・西奥・山口拓・宇都・藤木・太田智 【予防薬学】 小川・隈・小林・佐藤・深澤・太田一・田中宏・相田・高崎・藤本 【医療基盤薬学】 安東・市川・大庭・黒川・小島・佐々木・高井・藤田・山口泰・藤井・山田・石原・榎本 | |

2024年度『特別研究』の研究指導担当教員(予定)

(1) 医療社会薬学大講座

| 職位・氏名 | | 研究テーマ |
|-------|--------------------------|---|
| 教授 | 梶島 力 Kabashima, Tsutomu | 生体物質を基盤とした機能性分子の開発および治療・診断への応用 |
| 教授 | 長岡 寛明 Nagaoka, Hiroaki | カテキン類の高速液体クロマトグラフィー蛍光分析法を用いた微量測定法の開発 |
| 教授 | 早川 正信 Hayakawa, Masanobu | 医療統計学および医学データ解析に関する研究 |
| 教授 | 室 高広 Muro, Takahiro | 大規模臨床データベース等各種医療情報を利用した臨床薬剤疫学研究及び臨床薬剤情報学研究 感染症分野での医薬品の適正使用に関する研究 |
| 教授 | 淀 光昭 Yodo, Mitsuaki | 立体構造に基づいた医薬品の分子設計 |
| 准教授 | 神谷 誠太郎 Kamiya, Seitaro | ナノ粒子の保存粉末化に関する研究 |
| 准教授 | 神田 紘介 Kanda, Kosuke | がん化学療法の制吐療法の最適化を目指した基礎的研究 |
| 准教授 | 出口 雄也 Deguchi, Yuya | 酸化的 DNA 損傷性を指標とした化学物質の発がん機構の解明および食品成分によるその抑制 |
| 講師 | 川崎 達也 Kawasaki, Tatsuya | 薬物トランスポーターを標的とする薬物相互作用に関する研究 |
| 講師 | 末廣 真理恵 Suehiro, Marie | 薬剤師業務に関する各種臨床研究 ケミカルハザードドラッグによる職業曝露を軽減するための研究 若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究 |
| 講師 | 吉田 達貞 Yoshida, Tatsusada | 原子・電子レベルによる生体関連分子の活性・機能発現メカニズムの精密解析 |

(2) 薬物治療設計学大講座

| 職位・氏名 | | 研究テーマ |
|-------|-------------------------|--|
| 教授 | 宇都 拓洋 Uto, Takuhiro | 伝承医薬からの医薬品シーズの探索研究 天然薬物の分子作用機序解明 |
| 教授 | 大磯 茂 Oiso, Shigeru | モノクローナル抗体を活用した薬物血中濃度測定法の開発 末梢組織を作用点とする抗うつ薬シーズの探索研究 オートファジー制御機能成分を用いた抗がん活性評価と応用研究 |
| 教授 | 岸原 健二 Kishihara, Kenji | T細胞分化・機能を制御する薬物の評価システムの確立および免疫機能を調節する治療薬の開発における分子基盤の解明 |
| 教授 | 山口 拓 Yamaguchi, Taku | ストレス性精神疾患、発達障害(特に ADHD)、薬物依存症の病態機序解明とその治療薬探索に関する研究 脳内“大麻様物質(endocannabinoid)”の機能的役割と精神疾患との関連性に関する神経行動薬理学的研究 |
| 教授 | 西奥 剛 Nishioku, Tsuyoshi | 認知症の発症・進展におけるグリア細胞の機能的役割の解明 関節リウマチにおける破骨細胞の骨破壊機序の解明 |
| 准教授 | 藤木 司 Fujiki, Tsukasa | アンチエイジングに関する機能的分子の探索と標的因子の発現調節機構の解明 |
| 講師 | 太田 智絵 Ohta, Tomoe | 天然薬物からの新規機能性成分の探索研究 薬理活性成分に関する研究 |

(3) 予防薬学大講座

| 職位・氏名 | | 研究テーマ |
|-------|----------------------------|--------------------------------------|
| 教授 | 小川 由起子 Ogawa, Yukiko | 真菌由来生理活性物質の機能解析とその臨床応用 |
| 教授 | 隈 博幸 Kuma, Hiroyuki | 磁気検出法を用いた新規臨床検査法の開発 |
| 教授 | 小林 秀光 Kobayashi, Hidemitsu | 薬剤耐性化が進む微生物の抗原性の解明および免疫化学的診断法の開発 |
| 教授 | 佐藤 博 Sato, Hiroshi | 環境衛生に関する研究 |
| 教授 | 深澤 昌史 Fukasawa, Masashi | 予防薬学における標的分子の可能性としての転写因子に関する研究 |
| 准教授 | 太田 一寿 Ohta, Kazuhisa | タンパク質や細胞自体を利用した様々な測定システム(バイオセンサー)の作成 |
| 准教授 | 田中 宏光 Tanaka, Hiromitsu | 「生殖細胞及びがん細胞の増殖分化の分子メカニズムの解析とその臨床応用」 |
| 准教授 | 藤本 京子 Fujimoto, Kyoko | 腸管腫瘍発生メカニズムとその予防に関する基盤的研究 |
| 講師 | 相田 美和 Sohda, Miwa | 異所性嗅覚受容体の生理機能の解明 |
| 講師 | 高崎 伸也 Takazaki, Shinya | 出芽酵母を用いた細胞内相分離現象の機構解明および治療への応用 |

(4) 医療基盤薬学大講座

| 職位・氏名 | | 研究テーマ |
|-------|----------------------------|--|
| 教授 | 安東 由喜雄 Ando, Yukio | アミロイドーシスの病態解析と治療 健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療 |
| 教授 | 市川 和洋 Ichikawa, Kazuhiro | 磁気共鳴法による生体機能分析法・機器開発 |
| 教授 | 大庭 義史 Ohba, Yoshihito | 高感度・高選択分析を指向した新規分析手法の開発 |
| 教授 | 黒川 健児 Kurokawa, Kenji | MRSA による感染症の新規治療法並びに予防法の開発を見据えた基礎研究 |
| 教授 | 小島 直人 Kojima, Naoto | ミトコンドリアを標的とする新規抗がん剤の創製研究 |
| 教授 | 佐々木 茂貴 Sasaki, Shigeki | mRNA の選択的化学修飾による遺伝コードの人工的編集 リピート病治療薬に向けた低分子創薬 |
| 教授 | 高井 伸彦 Takai, Nobuhiko | 物理学的診断法を用いた重粒子線がん治療の高度化に関する研究 |
| 教授 | 藤田 英明 Fujita, Hideaki | 細胞内タンパク質輸送の分子機構の解析 チロシナーゼ分解を促進する美白化合物の作用分子機構の解明 |
| 教授 | 山口 泰史 Yamaguchi, Yasuchika | ATP をキーワードとする生物有機化学・医薬品化学 |
| 准教授 | 藤井 佑樹 Fujii, Yuki | 海洋生物レクチンの構造と機能に関する研究 糖鎖を介した細胞制御機構の研究 |
| 准教授 | 山田 耕平 Yamada, Kohei | 生体高分子の精密化学変換を志向した実用的反応の開発 |
| 講師 | 石原 知明 Ishihara, Tomoaki | 脂質メタボロミクスによって解き明かされる、脂質代謝を介した生体恒常性制御機構の解析 |
| 講師 | 榎本 彩乃 Enomoto, Ayano | 磁気共鳴法を用いた非侵襲的な生体情報取得のための計測機器及び計測手法の開発 |

いつも、人から。そして、心から。
長崎国際大学
Nagasaki International University

学校法人 九州文化学園

長崎国際大学

人間社会学部／国際観光学科・社会福祉学科

健康管理学部／健康栄養学科

薬学部／薬学科

人間社会学研究科／観光学専攻・社会福祉学専攻（修士課程）

地域マネジメント専攻（博士後期課程）

健康管理学研究科／健康栄養学専攻（修士課程）

薬学研究科／医療薬学専攻（博士課程）

長崎短期大学

地域共生学科・保育学科

専攻科／保育専攻

九州文化学園高等学校

普通科・食物調理科・衛生看護科・保育福祉科

九州文化学園中学校

九州文化学園小学校

九州文化学園高等学校衛生看護専攻科

九州文化学園歯科衛生士学院

九州文化学園調理師専門学校

九州文化学園幼稚園